

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

公明党彦根市議団： 上杉 正敏、中野 正剛

(2) 実施日：平成 29 年 1 月 30 日（月）

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

- ① 現在、彦根 IC から彦根城までの間が土日や観光時期になると車の渋滞が特に激しくなり、観光を活性化させる妨げになっているので、この現状を早急に解決する必要がある。
- ② 本市のこれからの人口減少・高齢化を考えると今の自家用車中心から公共交通機関を利用する環境をもっと整備する必要がある。

(2) 本市における課題

今、彦根市では彦根 IC で車を降りてもらい、バス等の交通機関による観光を促す、「パークアンドバスライド」を実施して道路の渋滞を解決し、快適な観光をしてもらう計画をしているが、他市の取り組みを参考にして、彦根市にマッチした計画を作り、実施しないと効果が得られない結果になる恐れがある。

また、将来の彦根市を考えると、人口減少や高齢化が進むことによる公共交通機関の重要性がこれから更に増してくると思われるので、自家用車だけに頼らない公共交通機関の利用を研究する必要がある。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

鎌倉市の「パークアンドライド」について

(2) 選定地 1：

神奈川県鎌倉市役所

選定地 2：

選定地 3：

【3. 調査結果】

(1) 内容

鎌倉市は現在、年間 2000 万人の観光客が訪れる、三方を山で囲まれた面積約 40 ㎢、人口約 17 万人の市で JR、江ノ電、湘南モノレールが市の周囲を走っている。

鎌倉市は古くは観光地、その後は横須賀基地も近くにある関係で外国人も訪れ、別荘地として発展して今に至っているが、近年は鶴岡八幡宮から長谷の大仏間の土日の交通渋滞が激しくなったため、平成 9 年から計画をスタートして、平成 13 年から「パークアンドライド」を実施し、今では「江の島」（200 台駐車）「七里ガ浜」（350 台駐車）「稲村ヶ

崎」(50台駐車)「由比ガ浜」(200台駐車)の4カ所を用意して、上記の鉄道利用を中心にした「パークアンドレールライド」を主に実証実験を行っている。駐車場については、江ノ電やホテルの協力を得て民間の駐車場を使わせてもらっている。駐車料金は「七里ガ浜」で5時間1800円、「由比ガ浜」で4時間1660円、「江の島」で5時間1500円、「稲村ヶ崎」で1800円、いずれも江ノ電フリー切符が2名分付いており、「由比ガ浜」は駅から離れているのでバスのフリー切符も付いている。

このような準備をして、今まで、「パークアンドライド」+「シャトルバス」+「バス優先レーン設置」を行っているが、今でも休日の渋滞解消には至っていない。現在4カ所の駐車場の利用台数は年間合計で18,868台、単純に割ると1カ所1日15台の利用にとどまっている。観光エリア内には104カ所のコインパーキングがあり、1488台駐車できる。観光客数を考えると、コインパーキングも十分な収容能力があるとはいえないのに、「パークアンドライド」の利用は進んでいない。

他にも電車で鎌倉市を訪れる人については、指定区間が1日乗り放題のお得な「鎌倉フリー環境手形」を用意している。

「パークアンドライド」周知については、看板やFM放送で観光客には発信しているが、まだ多くの人には浸透していない(まだ、知らないという声を多く聞く)。

最終的には「ロードプライシング」(鎌倉市に入る車に課金する制度)を導入して、交通量を30~50%削減したいが、実証実験には至っていない。

「パークアンドライド」の実証実験を行うにあたり、交通計画研究会を立ち上げて、町内会の方や市民に参加してもらって年3回程度の意見交換会を行っている。それと専門部会も年6回開催しており、住民への説明として「研究会ニュース」を発行して対象個所への全戸配布と各支所へ置いての周知を行っている。

(2) 考察

鎌倉市の「パークアンドライド」を調査して、いかに車から降りてもらって公共機関に乗り換えてもらう事が難しい事かを感じた。鎌倉市への車の出入りは1日16万台あり、土日より平日の方が車の台数が多いにも関わらず、混雑して渋滞するのは土日で観光目的の時間帯は限られており、そこに集中しているとの説明だった。平成9年から20年間取り組んできて、「パークアンドライド」で準備した駐車場を利用するのは1日に出入りする車16万台に対して4カ所で60台。交通渋滞解消の有効な手段となり得ていないのは数字からも明らかだ。また、江ノ電には乗ってみたいと言う観光客が多いという好条件がありながらも「パークアンドライド」が浸透しない所に成功への難しさがあるように感じた。

この鎌倉市のような有名な神社仏閣があり、江ノ電、海岸と多くの年齢層、多くの人々を呼び込めるような地で、面積から考えても公共交通機関を充実できる条件や人口密度があっても、なかなか浸透しない「パークアンドライド」を本市で成功させることは大変な工夫がいると思われる。

しかし、彦根市の将来を考えると公共交通機関の充実は是非とも実現したい課題だと思う。バスを例にあげても利用客が少ないので便数が減る、路線が減る。さらに利用者が減るといふ悪循環のスパイラルを脱却して、「パークアンドバスライド」により、観光客が彦根の公共交通機関を多く使ってもらう事を利用して公共交通機関網の便数、路線の増加

を図り、公共交通機関を利用したほうが安くて便利になる好循環を作り出していくことが、観光にとっても、市民生活にとっても、また、夜の町中の賑わいを作り上げることにとても重要だと思われる。

今、2020年を目指してバスの無人運転の実証実験が秋田で行われるなど、無人化された路線バスの運行も夢ではなくなっている。近い将来には彦根市でも無人運転のバスが運行される可能性は十分にある。

今回の鎌倉市の調査で本市に來訪する観光客に「パークアンドライド」を利用してもらうためには「パークアンドバスライド」を利用した方が、「安い」、「特典がある」、「多くの観光ができる」、「快適に回れる」、「楽しい」などのお得感と、魅力を感じてもらえるような多くの知恵と工夫があると思われるが、あらゆる層やあらゆる視点からの意見を集結して、彦根の実情に合った「パークアンドライド」を研究して、公共交通機関の充実を図っていく価値はあると思う。

以上

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

公明党彦根市議団： 上杉 正敏、中野 正剛

(2) 実施日：平成29年1月31日（火）

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

平成36年に第79回国民体育大会、第24回全国障害者スポーツ大会が開催されるにあたり、新市民体育センターが建設されることになった。

(2) 本市における課題

今回、建設される新市民体育センターには金亀公園にあった弓道場も施設内に入ることになり、また、建設される地にあった、「ひこね燦ぱれす」も解体して合築することになった。体育館としては南彦根駅前という交通アクセスも申し分ない、市民に利用しやすい絶好の立地条件の施設になるので、是非とも多く利用してもらい、市民に愛される施設にしたい。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

大田区総合体育館について

(2) 選定地1：

東京都大田区

選定地2：

選定地3：

【3. 調査結果】

(1) 内容

大田区総合体育館は平成20年に旧大田区体育館と大田区第3庁舎を取り壊して建設費72億を投じて建設された。この体育館は「する」スポーツと「みる」スポーツを基本コンセプトに建設され、日本トップリーグ連携機構に加入する各競技団体にヒアリングや相談を行い、設計作業を進め、その繋がりから試合や大会の誘致を行った。

メインアリーナの観客席は固定・可動を含めて4000席、広さは48m×38m、天井高さは21mでセンターハングスコアボードが設置されている。また、観客席のコーナーからの観客の視界を確保するために、観客席のコーナーにはRをつけて、コーナーであっても、座席がアリーナの方を向くように設計されていた。サブアリーナの観客席は200席、広さは34m×19m、天井高さは8mとなっている。弓道場も5人立の近的場が設置されており、他には体育室、会議室、控室があり、サブアリーナを見なが

ら飲食ができるカフェテリアも設置されていた。

スポーツ教室も活発に行われており、次に使用する団体が時間待ちをしている姿も見られた。

建物は、近接して住宅街があるので、旧体育館の20mに高さを合わせて、新体育館の地上高さも20mに抑えて、地下からの建設にしている。また、住宅に配慮して音が漏れないように住宅街側の壁面には非常口以外は窓などを一切設けなくて防音対策をしている。また、プロスポーツや全国大会レベルの試合に対応できるよう、完全遮光や空調、床の滑り具合などにも工夫がなされていた。

屋上は緑化されており、散策もでき、弓道場の屋根に当たる部分にはソーラーパネルが設置されていた。

太田総合体育館では28年度実績でも年間36日が全国規模の大会に使用されており、昔からプロレスの興行も開催されていた関係から知名度も高く、また、4000席という規模が東京では大きな会場は10000席になるので、ちょうど使い勝手が良い規模になるという利点も働いて、現在では大会を誘致しなくても申し込みがあり、「みる」スポーツに関しては、「何もしなくても施設の利用がある」状態になっている。今は、「みる」スポーツと「する」スポーツの割合をどうするかが課題になっている。

(2) 考察

大田区総合体育館の説明を聞いて、うらやましい限りである。これ程までに本市で建設される新市民体育センターもなってほしいと願う。

施設の利用状況を見ても、メインアリーナ96%、サブアリーナ：91%、体育室1：89%、体育室2：87%、弓道場：100%と非常に高い。しかし、これも東京だから可能だと感じた。

本市でプロスポーツを含む全国大会レベルの競技を行える施設にしようとするなら、毎年、継続的にどのような大会がどれくらいの頻度で開催されていくのか、また、観客動員数はどれくらい見込めるのか、年間、毎月、安定的に開催していけるのかをしっかりと見極める必要があると感じるし、このレベルの試合を開催できるようにするには、床面、空調、遮光、防音などの施設もよりグレードの高いものにしなければならないし、プロの試合に必要な設備を運び入れる搬入口も必要である。大田区総合体育館にはトラックが地下の搬入口に着けられるように設計しており、そこからメインアリーナにボクシングなどのリングを設置する道具を運び入れることが出来るようになっていた。プロの試合が可能な設備にするには相当な費用がかかり、日頃、使わない設備まで用意する必要があるように思う。

それよりも本市では大田区の言葉を借りれば、「する」スポーツを重視することが大切だと感じた。南彦根駅前という幅広い年齢層が気軽にアクセスできる地の利を活かして、さまざまな教室を開催するなど、利用率を上げるような取組をすることが、市民に喜んでもらえる新市民体育館になるポイントだと思う。

弓道場も見学した時は高齢者が使用していた。休日等は各学校が貸し切りで使用していて、上記にあるように100%の使用率になっている。

本市の弓道場も幅広い年齢層に多く使用されており、新市民体育センターに弓道場の近的

と遠的場ができれば、市内の学校の弓道部がこぞって使用することは容易に想像できるし、県内・県外の他市からも多くの利用者が見込まれ、観光と結びついていくことは間違いないと思う。

また、大田区総合体育館内の掲示ポスターに障害者スポーツ（車イスバスケット）が掲示されていた。やはり、これからの体育館は障害者スポーツが大きくクローズアップされていくと思う。今回、建設される新市民体育センターは駅のすぐそばなので、障害者にとって移動もしやすい、利用したい体育館になると思うので、こちらにも力を入れた施設になってほしいと思う。

以上